

<速報>古紙部会 市況情報

■概況

- ・ 2008年11月より輸出価格が最安値の底値状態で1月を迎えている。国内メーカーは三ヶ月連続で仕入れ価格の値下げを実施している。
減産による購入数量の大幅な制限も引き続き行われている。
上物古紙も品種によっては3円から6円の値下げが行われている。

■新聞

- ・ 1月1日からの3円/キロの値下げが国内メーカーより発表された。購入数量は昨年対比でかなり少なくなっているため、余剰玉の輸出数量が増える見込み。
通常価格より少し下げたスポット価格で表向きの数量以外の安値玉を購入している大手メーカーもあるようだ。

■雑誌

- ・ 1月1日から2円～3円/キロの値下げ。品枯れ期に入っているが、それ以上の購入減になりそうだ。上物古紙も下がっているため選別経費を嫌って、雑誌に大量に混入されそうだ。
当初混乱が予想された中国側のMI X (NO3) に対する輸入制限の影響はまだ出ていないようである。

■段ボール

- ・ 1月1日から一部メーカーが2円/キロ程度の値下げを発表。
レンゴー(株)の大坪社長が(財)古紙再生促進センターの賀詞交歓会にて段ボールの価格は下げないと発言したが、なおさら他社の動向が気になりである。
輸出も、タイ、中国と順調に行われているので、問屋の在庫調整は今月中にうまく進むのではないかと。

(参考)

日経相場 平成21年1月15日付け

新聞 10.0～10.5円
雑誌 6.0～6.5円
段ボール 8.0～8.5円
市中価格は値下がり続けている。

2009年1月15日

日本再生資源事業協同組合連合会
業務委員会・古紙部会